

気候変動による
影響への
適応

変化する気候と これからの備え

三重県気候変動適応セミナー 2015

【日時】 2015年2月15日(日) 13:30~16:00

【会場】 プラトンホテル四日市 3階・ダイヤモンドホール



開会挨拶

石垣 英一 (三重県副知事)

県内でも各地で100ミリを超える豪雨がみられるようになってきました。

昨年はデング熱が国内で感染し、患者は160名にも及びました。地球温暖化問題は、気候が変化し、私たちの環境が急変する問題です。



司会

山口 容子 氏 (フリーアナウンサー・成蹊大学非常勤講師)



基調講演

原澤 英夫 氏 (国立環境研究所 理事)

「地球温暖化による生活への影響と備え」

進む地球温暖化のなかで、強い台風による被害は既に起きています。IPCC第5次評価報告書では、主要な8つのリスクが示されました。国内の気候変動による影響評価も進んでおり、熱中症、水道等のインフラ・ライフライン等への影響が重大とされています。

今後は、現在および将来の温暖化影響を低減するための適応策を、国・地域・個人レベルで検討し、準備する必要があります。地域に根差した適応策や、個人の適応の学習・実践への参加も求められます。

トークセッション

「変化する気候のもとで“しなやかに暮らす”には ～健康と生活の未来～」

パネリスト 浦北 豊 氏（生活協同組合コープみえ CSR推進部 部長）

原澤 英夫 氏（国立環境研究所 理事）

堀 浩樹 氏（三重大学 理事・副学長、医学博士）

虫鹿 里佳 氏（気象予報士）

コーディネーター 山口 容子 氏（フリーアナウンサー、成蹊大学非常勤講師）



浦北 豊 氏

自分の暮らし・家計を見える化することで、環境に優しい行動につながります。健康状態もまた、自分でよく見つめることが大切です。



原澤 英夫 氏

3つのことを覚えてください。
①災害は忘れないうちにやってくるようになってきたこと。②適応策は自助、公助、共助で取り組むこと。③備えあれば憂いなし。事前の行動を心がけること。



堀 浩樹 氏

熱帯地域のガーナでの診療で熱中症の患者を診ることはありませんでした。熱帯地域では気温の変化が大きいからだと考えられます。日本には四季があるため季節の変わり目の気温上昇に体が馴れておらず、熱中症に注意が必要です。



虫鹿 里佳 氏

今までに経験したことのないような雨や暑さがいつ起きても対応できるように、日頃から情報収集の方法を決めておくことが大切です。いざという時には避難をためらわずに行動してください。



山口 容子 氏

気候が変わることは、私たちの生活環境が変わることです。よりよく暮らすため、更に学びを深めていくことが大切です。



< 参加者：106名 >